

延慶2 己酉 1309	の返還を求めた鎌倉円覚寺との相論に敗訴する。 6.16 足利貞氏、足利被官倉持師経(常)の養子倉持乙若丸に対し、陸奥国賀美郡沼袋半郷(宮城県色麻町)並びに鎌倉屋地、上総国市西郡勝馬郷内小堤田屋敷(市原市)、三河国額田郡賞寺屋敷給田(愛知県岡崎市)の所領を、「養父倉持左衛門二郎師常去年徳治三〈年〉八月八日讓状」に任せてこれを安堵する。	県外・大栄町史料編Ⅰ) 倉持文書(県歴県外)
応長1 辛亥 1311 4.28	9.22 執権北条師時没する(享年37)。10.3 北条宗宣、連署を辞して、執権職に転じる。北条熙時(貞時の娘婿)、連署となる。10.26 最勝園寺入道北条貞時没する(享年41)。	鎌倉年代記・武家年代記・北条九代記・北条系図 本土寺過去帳
正和1 壬子 1312 3.20	3.28 千葉介胤宗没する(享年45)。その子貞胤、跡を継ぐ。 6.12 執権北条(大仏)宗宣没する(享年54)。連署北条熙時、執権職に転ずる。	鎌倉年代記裏書 ・北条九代記等 鶴岡八幡宮寺供僧次第(続群書・県歴記典)
正和2 癸丑 1313	8.5 鶴岡八幡宮寺供僧智円、下総国葛飾八幡宮(市川市)別当に補任される。	中山法華經寺文書Ⅱ(県歴県内)／中山法華經寺史料
正和3 甲寅 1314	4.21 千葉胤貞(宗胤の子)の養子大輔房日祐(17歳)、日蓮宗中山門流(本妙寺・法華寺両寺一主制)のち中山法華經寺)の第3代貫首となり、2代日高より下総国八幡庄若宮戸村・谷中郷内及び千田庄牛尾郷内の「所々堂宮井田地等」(市川市・香取郡多古町)を譲り受ける。	武家年代記
正和4 乙卯 1315	7.12 北条熙時出家し、執権職を北条基時に譲る。また同日、北条(金沢)貞顕、連署となる。 7.18 北条熙時没する(享年37)。 8.7 相馬胤顕後家尼妙悟、胤顕跡の下総国南相馬内泉村・金山(柏市)、陸奥国行方郡岡田村・同飯土江狩倉一所・矢河原山地頭職・八兔(福島県南相馬市／同相馬郡飯館村)などの所領を、惣領小次郎胤盛・2男孫六胤兼及び孫の五郎胤康(胤盛の子)らに譲与する。	相馬岡田文書(県歴県外・県史県外)／相馬文書<相馬岡田文書>(史料纂集)
正和5 丙辰 1316	7.10 北条高時(14歳)、北条基時にかわって執権となる。	武家年代記
文保1 丁巳 1317 2.3	2.19 日蓮宗中山門流(本妙寺・法華寺両寺一主制)のち中山法華經寺)の第3代貫首となった千葉胤貞の養子・大輔房日祐、貫首就任にともない初めて上洛する。	中山法華經寺文書Ⅱ(県歴県内)／中山法華經寺史料／本尊聖教録

文保2 戊午 1318	11.20 御家人平賀惟藤、安芸国高屋保(広島県東広島市)・越中国油田(富山県八尾町)・上総国桜屋郷(長生郡長柄町)・出羽国平鹿(秋田県横手市)の所領を、一子なきにより安芸尼御前へ譲与する。	平賀家文書(県歴県外)
元応2 庚申 1320	3.8 相馬胤盛後家尼専照、胤盛跡の下総国南相馬内泉村(柏市)並びに陸奥国行方郡岡田村・飯土江狩倉(福島県南相馬市／同相馬郡飯館村飯樋)の所領を、惣領職として五郎胤康(胤盛の子)へ譲与する。 12.1 千葉(千田)胤貞、養子大輔公日祐(日蓮宗中山門流第3代貫首)へ、「下総国八幡庄谷中郷内中山堂地」並びに「田地式町・在家屋敷」を譲与し、また「十羅刹御神田壹町、下総国八幡庄谷中郷内田地」「妙見御神田合式町」を寄進する。	相馬岡田文書
元亨1 辛酉 1321 2.23	6.22 幕府(執権北条高時・連署北条〈金沢〉貞顕)、武蔵国金沢称名寺(横浜市金沢区)に対し、金沢実時妻(南殿)寄進の常陸国北郡(茨城県石岡市)内寺領3ヶ所50余町の替地として、小笠原彦二郎入道(道円)知行分並びに東六郎盛義所領3分1(9町3段大／下総国橘〈東〉庄上代郷内)を宛行うことを命じ、盛義の分について千葉介胤貞の御使その打渡を行なう。 9.3 平賀氏「尼きやうくわん」(安芸尼御前カ)、安芸国高屋保、越中国油田条、上総国桜屋郷、丹後国河守庄・夏間村(京都府福知山市)の所領を、子なきにより、養子平賀三郎兼宗へ譲与する。 10.相馬孫五郎重胤、一族家人らを率いて下総国相馬郡から陸奥国行方郡へ下向し、太田川流域の同郡太田村(福島県南相馬市)に居館を構える。 7.相馬重胤、陸奥国行方郡小高村(南相馬市)へ移り、小高孫五郎を号する。	金沢文庫文書(県歴県外・県史県外)
元亨2 壬戌 1322	1.禅僧夢窓疎石、上総国千町庄(いすみ市)に往き、退耕庵を創始する。	相馬文書／相馬氏家譜・奥相秘鑑(相馬市史資料編)等 相馬文書
元亨3 癸亥 1323		夢窓国師年譜(続群書・県歴記典)
正中1 甲子 1324 12.9	9.19 後醍醐天皇、日野資朝・同俊基・四条隆資・花山院師賢・洞院実世・僧遊雅・多治見国長・足助重成・同重範・土岐頼員・同頼有らを集めて、「無礼講」を催して幕府転覆を謀議す	太平記(日本古典文学大系)／武家年代記裏書

建武1 甲戌 1334 1.29	国波多野庄内平沢村一分等」(東金市／神奈川県秦野市)を安堵される。 10. 陸奥守北畠顯家、義良親王を奉じて陸奥の多賀国府(宮城県多賀城市)へ下向する。12. 相模守足利直義、成良親王を奉じて鎌倉へ下り、鎌倉将軍府を開いて関東10ヶ国(相模・武蔵・安房・上総・下総・上野・下野・常陸・甲斐・伊豆)を統治する。 同10. 相馬岡田長胤、亡父胤盛重代相伝所領の「下総国相馬御厨内泉村内田畠在家、陸奥国行方郡内岡田村内田在家等」(柏市／福島県南相馬市)について、系図1通と胤盛後家尼母堂の譲状1通を副えて当知行安堵の国宣を賜わるように国衙(陸奥守北畠顯家)に申請する。同月、相馬孫五郎重胤代(相馬)親胤、重胤重代相伝地の陸奥国行方郡耳谷村・目々須沢村・堤谷村・高村・釘野田畠在家・狩倉(福島県南相馬市)などの所領について、安堵の国宣を賜わるように国衙(陸奥守北畠顯家)に申請し、12.22 顯家の外題安堵を得る。 1. 鎌倉将軍府に関東 廂 番(御所廂の間での宿直警衛の役)が定められ、相馬小次郎高胤が3番、二階堂下野判官高元(駿河守行春・駿河入道忻恵／のち上総国伊北庄〈いすみ市〉領主)が6番の結番の任を務める。 一この年の春、後醍醐天皇の皇居紫宸殿に祭壇を構えて天下安鎮の法会が催され、四門の警固に結城親光・楠木正成・塩冶高貞・名和長年があたり、南庭の陣には右に三浦介高継(あるいは高継の父時継か)、左に千葉大介貞胤が召されるも、貞胤、三浦の相手になることを嫌い、また三浦も千葉の右(下位)に置かれることを怒り、共に出仕をやめて、仏法の妨げ、法会の違乱となったという事件が伝えられる。 5.3 建武新政府、徳政令を發布し、諸国衙へ通達する。8. 二条河原落書。 8.1 相馬岡田胤康(長胤の兄)、陸奥国高城保内波多谷村(宮城県松島町幡谷)の所領を、国宣(陸奥守北畠顯家の袖判)をもって安堵される。 8.13 千葉介貞胤、徳政令の通牒を守護代円城寺図書右衛門入道(沙弥蓮一)へ伝達し、「向後	神皇正統記(群書・日本古典文学大系・日本古典全集・岩波文庫) 相馬岡田文書(県歴県外・県史県外)／相馬文書〈相馬岡田文書〉(史料纂集) 相馬文書(県歴県外・史料纂集) 建武年間記(群書)／二階堂系図(続群書)／尊卑分脈(新訂増補国史大系) 太平記 香取田所家文書〈検非違使庁牒案〉(県歴県内) 相馬文書〈相馬岡田文書〉(史料纂集) 香取田所家文書	建武2 乙亥 1335 守此法、可有成敗候」ことを指示する。 9.27 千葉(千田)太郎胤貞、後醍醐天皇の賀茂社行幸に際し、足利尊氏の随兵としてこれに供奉する。 11. 護良親王、捕えられて足利尊氏へ引き渡され、鎌倉へ流刑となり、二階堂薬師堂ヶ谷(今の鎌倉宮近く)の土牢に幽閉される。 12.1 千葉(千田)太郎胤貞、肥前国小城郡(佐賀県小城市)並びに下総国千田・八幡両庄(多古町／市川市)内知行分の惣領職を、嫡子孫太郎胤平へ永代譲渡する。 一この年、大功の輩の恩賞があり、足利尊氏に武蔵・常陸・下総3ヶ国、舍弟足利直義に遠江国、新田義貞に上野・播磨両国、楠木正成に摂津・河内両国、名和長年に因幡・伯耆両国が与えられる。 1.17 下総国千田庄内土橋山東禅寺(香取郡多古町)の住持本如房湛睿(のち武州金沢称名寺3世長老)、世上転変し、都鄙静謐ならず、東禅寺現住在縁の仁数輩が守護使乱入して召し取られるも、黙止し難く当寺において經典講義を開講する(2月7日に終わる)。 2.6 千葉介貞胤、中山門流(本妙寺・法華寺)大輔阿闍梨御房日祐に対して、下総国「八幡庄若宮戸村内法花堂敷〈地脱カ〉并畠事」の安堵状を与える。 4.3 佐々木道誉(導誉／高氏)、後醍醐天皇綸旨をもって「上総国武射北郷一円知行」(山武郡芝山町)を安堵される。 6.3 相馬孫五郎重胤、陸奥守北畠顯家から行方郡奉行を命じられ、また武石上総権介胤顯とともに「伊具・亙理・宇多・行方等郡、金原保」の検断職に任ぜられ、郡内の軍事・行政に関する沙汰権限を与えられる。 7.14 北条時行(高時の子)・諏訪頼重ら信濃国に挙兵し、同国守護小笠原貞宗の軍を破って一路鎌倉をめざして南下し、7.22 武蔵国井出沢(東京都町田市)で足利直義の軍勢を敗る。7.23 直義の命により、鎌倉二階堂薬師堂ヶ谷に幽閉の護良親王、殺害される。7.25 北条時行の軍、鎌倉を占領する(中先代の乱)。 8.2 足利尊氏、鎌倉の時行討伐のため兵を率い	朽本文書(県歴県外) 梅松論・保暦間記・太平記 中山法華経寺文書Ⅱ(県歴県内)／中山法華経寺史料 太平記 金沢文庫文書〈戒本見聞集奥書〉(県史県外) 中山法華経寺文書Ⅱ／中山法華経寺史料 佐々木文書(県歴県外) 相馬文書 梅松論・太平記・保暦間記 国立国会図書館
-----------------------------	---	--	---	--